

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 12 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011 年

課題番号：20520717

研究課題名（和文）近代化以前の鋳物業の民俗技術と営業形態に関する研究

研究課題名（英文）The Study of Traditional Japanese Foundry Production Before Modern Age

研究代表者 吉田晶子（YODHIDA SYOKO）  
国立民族学博物館・外来研究員  
研究者番号：00449828

研究分野：文化史

科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学

キーワード：物質文化、鋳物業、鋳造技術、民俗技術

## 1. 研究計画の概要

鋳物業は日本の歴史や文化を考える上で重要視されているが、従来の民俗学や歴史学の研究は、在郷で活躍した真継家配下鋳物師に偏向し、都市で営業する鋳工についての本格的な研究はほとんどなされていない現状にある。その結果、鋳物業の部分的な担い手に過ぎない在郷の鋳物師を主に、仏具鋳物師、鍋釜屋、仏具屋、釜師、唐物細工師などの呼称で存在する各種を漠然と鋳物業として総括してきた現状にある。

そのため、本研究では、在郷及び都市において鋳造に関係した職種の中から、特徴的な事例を取り上げ、それぞれのモノ資料、伝承資料、関係文書などから民俗技術と営業形態を具体的に復元して、比較検討する。民俗学的な研究方法を基盤に置きながら、文献史学や考古学の調査成果も取り入れた複合的な研究により、鋳物業として総括されていた各業種の相違点と特徴を明らかにし、全体像を解明する。

## 2. 研究の進捗状況

鋳造に関係した職人の中から、青銅製仏具などを専門に鋳造するもの、鉄製茶湯釜などを専門に鋳造するもの、青銅製品と鉄製品の両方を鋳造するもの、錫製品を専門に製造するもの、という様相の異なる事例について、それぞれの用具や製品の実測調査及び写真撮影、鋳造技術や営業形態に関する聞き取り調査などを行って比較検討してきた。

その結果、近代化以前の在郷では、古くから居住する鋳物師は周辺農村の需要に応じて、鍋釜や農具などの鉄製日常生活用具と鐘などの大型青銅製品の両方を鋳造し、新規に参入した者は鍋釜や農具に限定される傾向にある

ことがわかった。在郷の鋳物師が伝承する鋳造技術は惣型法であり、溶解設備として甑炉を備える。

一方、都市では鉄と青銅の両方を扱うものは少ない。燈籠・香炉・燭台などの青銅製品を蠟型法により鋳造するもの、梵鐘などの大型青銅製品を惣型法で鋳造するもの、茶湯釜・鉄瓶などの工芸品的要素の高い小型鉄製品を惣型法で鋳造するもの、鍋釜などの日常生活に使う鉄製品を惣型法で鋳造するものなどに細分され、蠟型法は金属の溶解に坩堝を使うのに対して、惣型法は甑炉を用いる。また、錫製品を鋳造とロクロ挽きの技術によって製造するものがおり、鍋を使って錫を溶解する。これらは順に、近世の買物帳などに記載される仏具師、仏具鋳物師、釜師、鍋釜鋳物師、錫師に対応すると考えられる。

近年の考古学の研究により、古代以降の鋳造関係業には、青銅製品及び鉄製品の両方を鋳造するものと、青銅製品を専門に鋳造するもの大きく二分されることが明らかになってきている。本研究により、その違いは惣型法・甑炉と、蠟型法・坩堝に象徴される鋳造技術の違いに起因し、それぞれの基本技術を保持しながら職分が多様化されたものと考えられる。さらに、錫製品については他と異なる独自の技術を有しており、他の職分と大きく異なることがわかった。

## 3. 現在までの達成度

## ①計画以上に進展している

(理由)

多様な鋳物業の形態や職分の相違について計画どおりに研究を進めることができた。さらに、錫器は美術工芸資料と民俗資料の狭間にあってほとんど研究されてきていなか

ったが、文献資料・民俗資料・工芸品資料を複合的に用いる研究方法により、その製造技術や特徴だけでなく、使用と生産の歴史を詳細に復元し、錫器の文化史的、民俗的な特徴を解明できた。

#### 4. 今後の研究の推進方策

平成 20 年度から 4 年計画で研究を進めてきたが、平成 23 年度は最終年度にあたるため、これまでに蓄積し、整理してきた調査データを総合的に比較検討した上で、不足する部分については補足調査を実施し、4 年間の研究をまとめた報告書を作成する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

- ①吉田晶子・宮元正博「錫器製造の民俗技術」、(社)日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学会「鉄の歴史-その技術と文化」フォーラム『「鉄-人と道具のその技術」研究 Gr. 発足記念講演会予稿集』、21~40 頁、2008 年 3 月、査読無
- ②吉田晶子「周家の鐘鑄技術」、文部科学省特別研究促進費「日本中世における銅鉄の金属生産とその流通に関する研究」『日中梵鐘の鑄造技術と鑄造工人』、41~63 頁、2008 年 3 月、査読無
- ③吉田晶子「南堀晩鐘の鑄造」、『鑄造遺跡研究会 2008』、4~13 頁、2008 年 9 月、査読無
- ④吉田晶子「博物館資料の活用」、八尾市立歴史民俗資料館『研究紀要』第 20 号、127(26)-117 (36)、2009 年 3 月、査読無
- ⑤吉田晶子「生活用具としての錫器」、『民具マンスリー』42 巻 1 号、1~15 頁、2009 年 4 月、査読無
- ⑥吉田晶子「大阪の錫器製造」、『民具マンスリー』42 巻 2 号、1~15 頁、2009 年 5 月、査読無
- ⑦吉田晶子「錫器製造の民俗技術」、『アジア鑄造史学会研究発表概要集』4 号、61~64 頁、2009 年 8 月、査読無
- ⑧吉田晶子「鹿児島島の錫器製造」、『民具マンスリー』42 巻 11 号、1~13 頁、2010 年 2 月、査読無
- ⑨吉田晶子「鑄掛屋の道具と鑄掛作業」、『民具マンスリー』43 巻 5 号、1~14 頁、2010 年 8 月、査読無
- ⑩吉田晶子「京都長谷川亀右衛門家の蠟型法における鑄型造型」、『アジア鑄造史学会研究発表概要集』4 号、61~64 頁、2010 年 8 月、査読無
- ⑪吉田晶子「錫器製造技術の地域差」、『鑄造遺跡研究会 2010』、2~13 頁、2010 年 9 月、

査読無

- ⑫吉田晶子「アチック・ミュージアムの民具コレクション 27 未登録の草履」、『民具マンスリー』43 巻 7 号、2010 年 10 月、23~24 頁、査読無
- ⑬吉田晶子「アチック・ミュージアムの民具コレクション 28 アダン葉製草履」、『民具マンスリー』43 巻 9 号、23~24 頁、2010 年 12 月、査読無
- ⑭吉田晶子「アチック・ミュージアムの民具コレクション 29 オミキスズ・オミキノスズ」、『民具マンスリー』43 巻 11 号、23~24 頁、2011 年 2 月、査読無

[学会発表] (計 5 件)

- ①吉田晶子「南堀晩鐘の鑄造」鑄造遺跡研究会、2008 年 9 月 27 日、京都橘女子大学
- ②吉田晶子「錫器製造の民俗技術」日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学会、2008 年 3 月 8 日、千葉工業大学
- ③吉田晶子・宮元正博「錫器製造の民俗技術」アジア鑄造史学会、2009 年 8 月 29 日、東京芸術大学
- ④吉田晶子「京都長谷川亀右衛門家の蠟型法における鑄型造型」アジア鑄造史学会、2010 年 8 月 29 日、島根県立古代出雲博物館
- ⑤吉田晶子「錫器製造技術の地域差」鑄造遺跡研究会、2010 年 9 月 25 日、京都橘大学

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

なし